

大阪大学工業会海外交流助成金 「渡航報告」

〔学生の部〕

渡航報告書

大阪大学工学研究科

精密科学・応用物理学専攻

博士後期課程 1 年 齊藤 正一朗

国際会議名 : Ψ_k Conference 2010

会場 : Henry Ford Building (Berlin, Germany)

渡航期間 : 2010/09/12—2010/09/16

Ψ_k Conference は 5 年に 1 度開催される計算物理学分野でヨーロッパ最大の国際会議である。第 4 回目の本会議では、116 件の招待講演に加えて 1200 人以上の計算物理学に関わる各国の研究者が参加した。この数の講演をわずか 4 日間でこなすため、5 つのセッションが同時進行で行われた。私は 3 日目のポスターセッションで発表を行い、その場で活発な議論を交わすことができた。

当該分野で著名な研究者の講演を聴講し、研究のストラテジー・講演の行い方などを聞くことができ、私にとって非常に勉強になるとともに、世界で活躍する研究者の研究のレベルの高さを痛感した。残念だったのは、5 つのセッションが同時並行で行われたため、聴講してみたい講演が他の講演と重なっていたりして、聴講できなかつたことである。

私が渡航したベルリンの気候は、猛暑続きの日本とは異なり、非常に寒かった。加えて、雨の多い時期のようで会議のアブストラクト集と共に折り畳み傘が配られた。幸運にも滞在中はあまり雨も降らずにベルリン観光を楽しむことができ非常にいい思い出になった。

最後に、貴重な経験を積む機会を与えてくださった大阪大学工業会に深く感謝いたします。



会議の様子



懇親会会場

海外交流助成金「渡航報告」は、提出されたままを掲載しております。

海外渡航報告書

大阪大学 大学院工学研究科 精密科学・応用物理学専攻
博士後期課程 定國 峻

参加会議 : 6th International Workshop on Nitride Semiconductors (IWN 2010)

開催場所 : Tampa, Florida, USA

開催期間 : 平成 22 年 9 月 19 日～24 日

今回、私はアメリカ合衆国フロリダ州のタンパで開催された IWN2010 に参加した。IWN は窒化物半導体に関する隔年開催の国際学会であり、本分野における最大規模の学会である。窒化物半導体は青色を中心とした発光デバイスや次世代高性能電子デバイスの材料として注目されており、本学会には北米、欧州、東アジアを中心に各国から多くの研究者が参加している。今大会では約 450 件の口頭発表と、約 200 件のポスター発表が行われた。発表内容は多岐に亘っており、結晶成長技術、結晶欠陥の解析、デバイスの作製といったセッションで特に活発な議論が行われていた。

私自身は、"Abrasive-free planarization of GaN using photoelectrochemical reaction" という題目で、半導体 GaN (窒化ガリウム) 基板の表面研磨技術に関する現状の成果を講演 10 分、質疑応答 5 分の口頭発表により報告した。発表後には有意義な質疑応答を多数交わすことができ、本研究に対して海外の研究者にも大きな関心を持って頂けたと感じた。

会議の合間には近隣の観光名所へと足を運んだ。フロリダ州はアメリカでも特に有名な避寒地であり、美しいビーチや、ディズニーランドなどのテーマパークが多数存在する。ただし、アメリカ南部に位置するため公共交通機関は未発達で、ローカルバスを乗り継いでの移動が主であった。フロリダの人々は明るく開放的であり、バス車内やレストラン、観光地など行く先々で現地の方々とたくさんの会話をすらることができ、異文化を肌で感じることができた。

最後に、この度の国際学会参加にあたり海外交流助成金を援助して頂いた大阪大学工業会に深く感謝いたします。



学会会場



Clearwater beach



バスの運転手、Kevin さん

海外渡航報告書

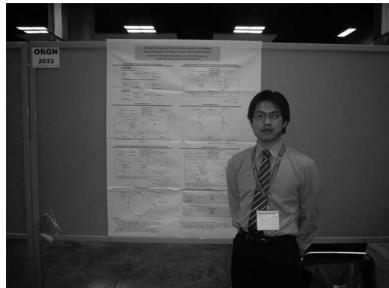
工学研究科 応用化学専攻
博士後期課程 2年 松山 直人

【参加会議名】 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies
(Pacificchem 2010)

大阪大学工業会海外渡航助成の支援を受け、2010年12月16日から22日までアメリカのハワイで開催された Pacificchem 2010 に参加した。Pacificchem 2010 とは、5年に一度開催される国際化学会議の名称であり、世界各国の化学者が一同に集まり、成果を発表し議論を行う場である。私の発表日は19日の夕方に開催されるポスター発表であるため、それまでは専門分野である有機合成化学とりわけ遷移金属触媒反応の発表などを中心に聞いて回った。日本で開催された国際学会にはこれまでにいくつか参加したことがあるが、やはり本場のアメリカであるためか、速い英語で講演が行われいくつか聞き取れない部分もあった。専門分野に関してはスライドもあり、なんとかついていくことができたが、少し離れた分野になると理解が追いつかない部分もあり、英語の勉強不足を実感した。しかし、ノーベル賞を受賞された先生や、若手でありながら世界で活躍する先生の講演を聞くことができ貴重な経験をすることができた。また、実際の自分のポスター発表においては、数人の外国人の方と議論を行った。想定している質問については、いくつか答えを用意しておいたので問題はなかったが、意外な質問に対してはすぐに返答ができず詰まった部分もあった。最終的には無事に最後までやり遂げることができほっとした。なかでも私の研究と全く同じ研究をしていたと中国の学生から聞いた時は驚いたが、お互いに活発な議論ができ楽しい一時を過ごすことができた。

講演の時間が空くこともありハワイの街の散策も行った。私は今回はじめての海外ということもあり、文化の違いなどで戸惑うこともあったが、事前に調べていたためか意外と苦労は少なかった。また、ダイヤモンドヘッドなどの観光地にも実際に足を運び、日本では見られない町並みを見ることもできたため、学会の間に貴重な経験をすることができた。

最後に海外渡航にあたり支援をいただいた大阪大学工業会に深く感謝の意を示します。



ポスター会場



ホノルルの様子

海外渡航報告書

応用化学専攻 南方研究室
博士後期課程 2 年 村上雄太

【参加会議】 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies

【開催場所】 Honolulu, United States of America

【渡航期間】 2010 年 12 月 15 日～21 日

今回、私はアメリカ合衆国ハワイで開催された 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacificchem 2010)に参加した。Pacificchem 2010 はアメリカ、カナダ、日本、ニュージーランド、オーストラリア、韓国、中国をはじめとする環太平洋諸国の化学会が共同で主催する国際学会であり、1984 年の第 1 回会議から約 5 年に 1 回アメリカのハワイで開催されている。私は学会ではポスター発表を行った。“Catalytic stereoselective aziridination of electron-deficient olefins using *N*-haloamides”というタイトルで含窒素複素三員環化合物であるアジリジンの新規な立体選択的合成法について発表した。2 時間の発表時間であったが、多くの質問をしていただいた。日本での学会とは異なる観点からの質問もいくつか受け非常に良い刺激となった。同時に自分の英語力のなさを痛感し、今後、英語でのディスカッション能力の向上が必要であるとひしひしと感じた。

発表のない自由時間には観光をした。気温は 30 °C 近くだったので海へ行ったり、ホノルル市内を散策したり、ダイヤモンドヘッドなどの観光名所にも繰り出した。街の人は誰もが優しく、食べ物もおいしいものばかりで本当に楽しむことができた。

最後に、この度の国際学会参加にあたり、海外交流助成金を援助頂いた大阪大学工業会に深く感謝いたします。



ポスター発表の様子



ハワイのビーチ

海外渡航報告書

大阪大学工学研究科
ビジネスエンジニアリング専攻
博士後期課程 1 年 景山 惺

2010 年 11 月 29 日から 12 月 3 日にわたり、アメリカのボストンにて開催された Materials Research Society による Fall Meeting に出席した。私の発表区分は、次世代燃料電池のための材料研究であった。発表形式は口頭発表とポスター発表に分かれており、私が発表したのはポスター形式のものであった。アメリカ、ドイツなどの欧米諸国と、中国、韓国、日本などのアジア諸国の研究者が集まり、多種多様な発表をした。発表者の数も、世界各国から集まる研究者により、膨大であり、圧倒された。

発表されたポスターは、研究者毎に工夫が凝らされたデザインのものが多く、参考になるもののが多かった。研究内容も様々であったが、私の研究内容に関連の深いナノ粒子合成とその構造評価に関するものも多かった。そこでは、新しいナノ粒子合成法、新しい構造評価方法が試されており、今後の燃料電池分野の一翼を担う研究の萌芽を垣間見た気がした。私の発表にも、何人かのナノ粒子合成の研究者に興味を持っていただき、合成の詳細から幅広い研究アプローチ、研究の学術的位置づけに至るまで、様々な情報交換、ディスカッションをする機会をいただいた。口頭発表にも聴講に行き、そこで燃料電池研究の最先端で業績を持つ、優れた研究者達の講演を聞くことができた。また次回も、この学会で新しい研究成果を世界に発表し、学術的に貢献していきたい。

最後に、今回の海外渡航に当たり助成金を援助して下さった大阪大学工業会に、深く感謝いたします。